

J P分析メニューのチャートには、簡単に売買サインを作れる「売買条件作成」という機能が備わっています。度々ホームページで紹介していますので、皆様はもうご存じのことかと思えます。

通常この機能は、過去の日を基にサインを作成し、将来のサイン点灯に備えるといったものですが、今回紹介する内容は、それを逆に捉えて直近日を基にサインを作り過去について表示しているのか、いないのかを調べる手法です。

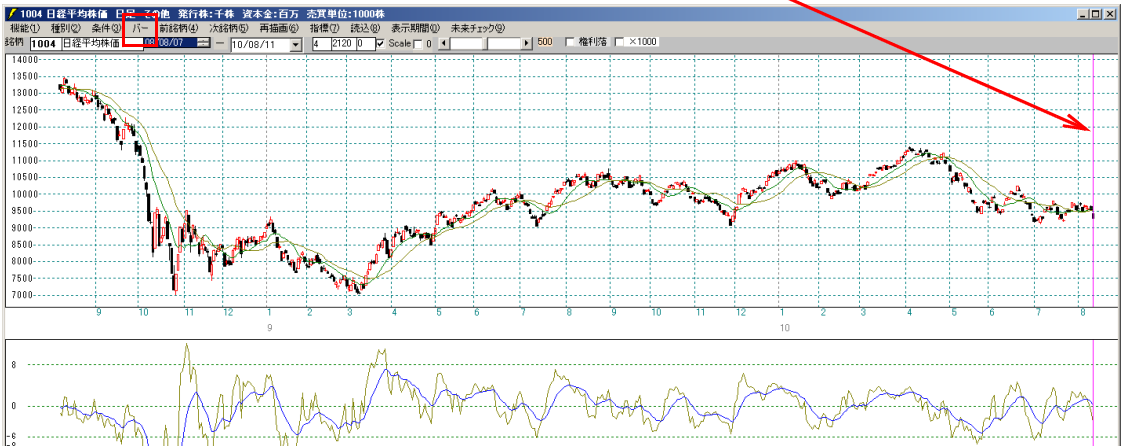
この目的は、直近と同じサインが過去にあれば、今後相場がどう動くのかを判断する上での材料となるであろう、というものです。

過去にサインが表示されれば、これからの目安になりますので。

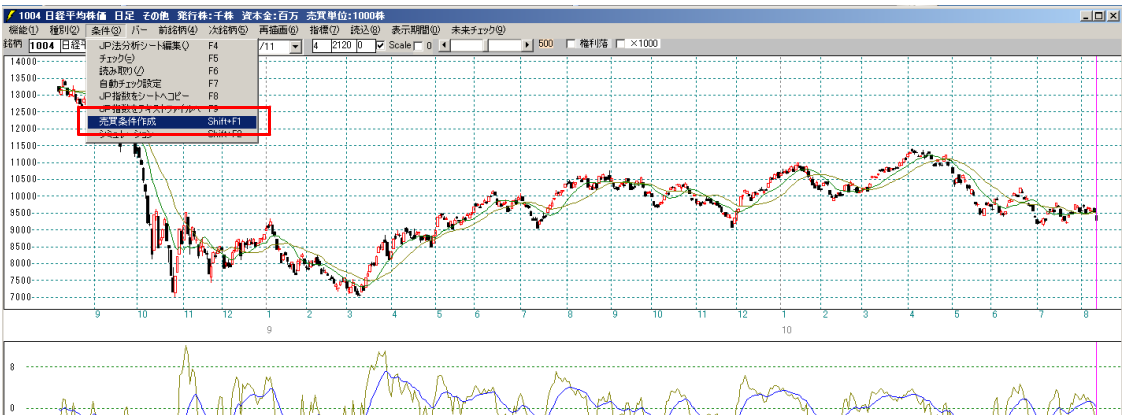
今回使用するソフトは期間が長いJP1000です。JP法ソフトでも同じように出来ます。

## ■手順 サインの作り方

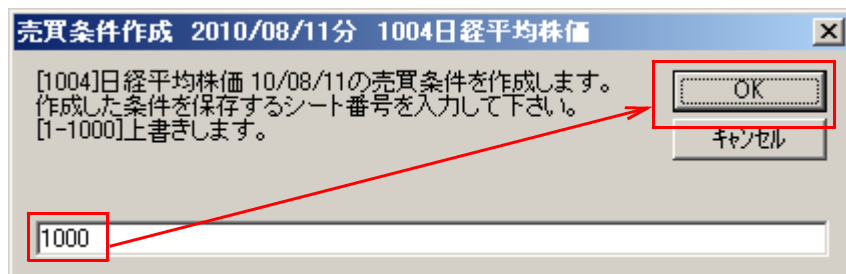
まず直近に縦バーを表示させます。「バー」から「バー表示」をクリックします。下記のように直近日（8/11）に縦バーが表示されます。



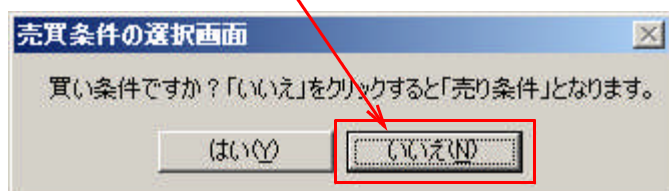
「条件」 - 「売買条件作成」をクリックします。



今回は例として「1000」番に作成します。

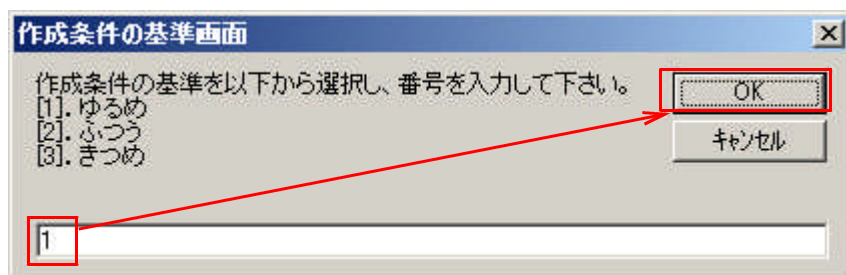


「いいえ」をクリック。売りの条件を作ります。

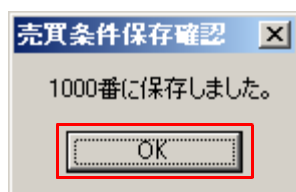


※もちろん買い条件でもかまいませんが、結論から言ってしまうと買いの場合は、過去についてのサインが出ませんでした。  
よって紙面の都合上、売りサインの作成とします。

「ゆるめ」のサインを作ります。



OKをクリックします。

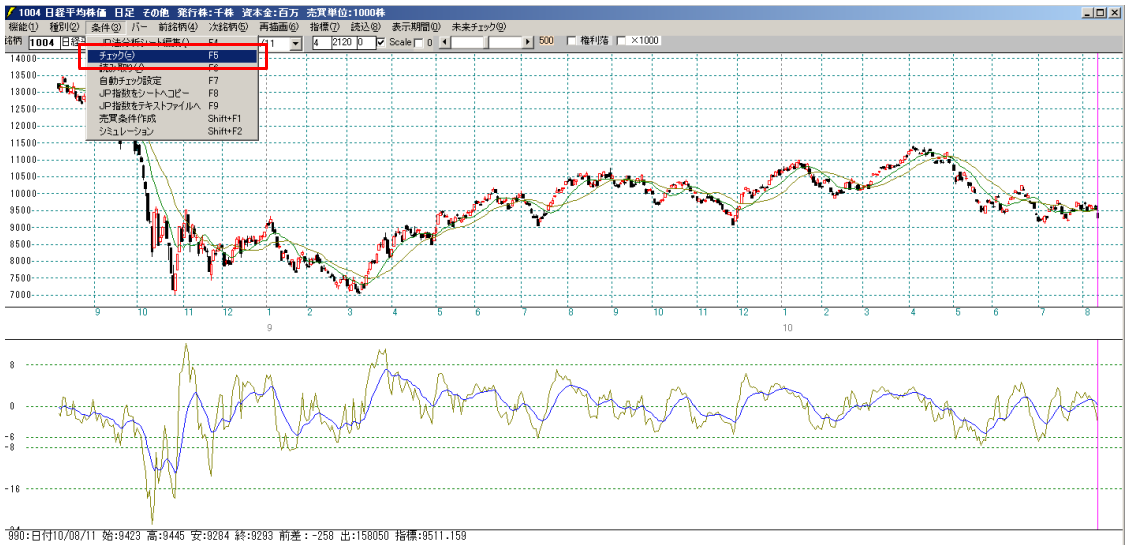


ここまでの手順で1000番に直近のデータを基にした売りサインが作成されました。

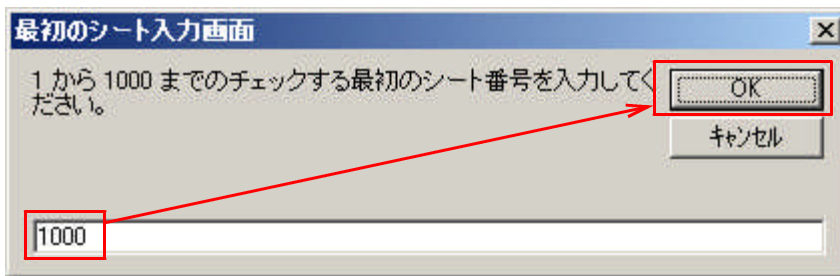
次は、この売りサインが過去において表示されるかどうかを調べます。

## ■サイン表示の方法

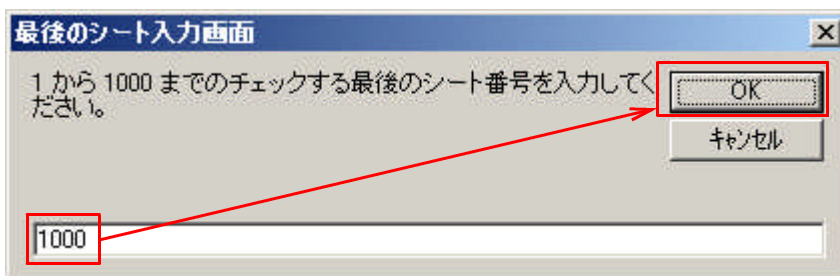
「条件」 - 「チェック」をクリックします。



最初の番号は「1000」です。



最後の番号も「1000」です。



直近はもちろん表示され、過去についても点灯箇所がありました。



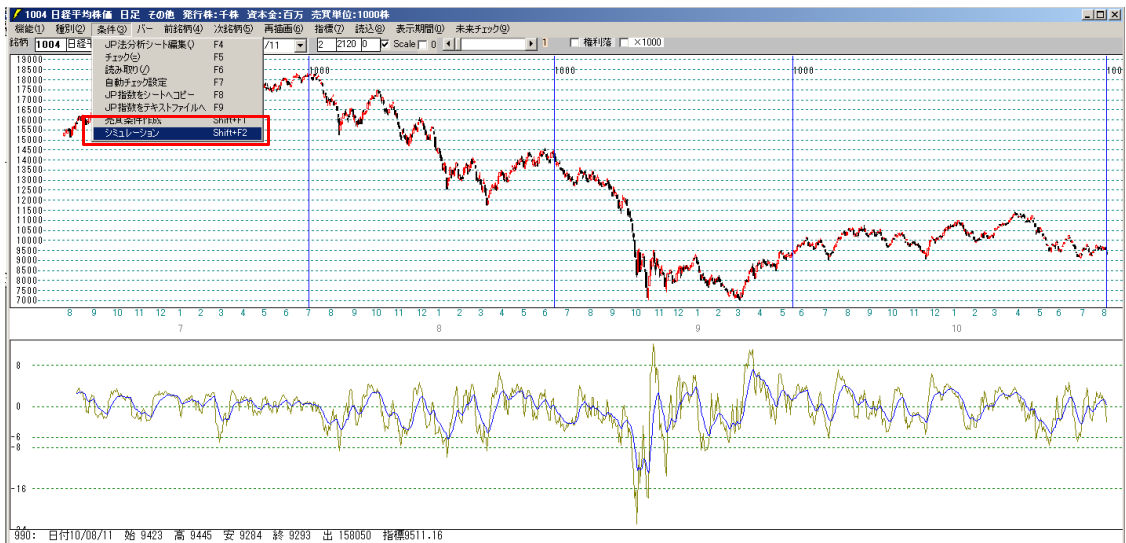
全期間表示だと下記のようになります。3カ所ありました。



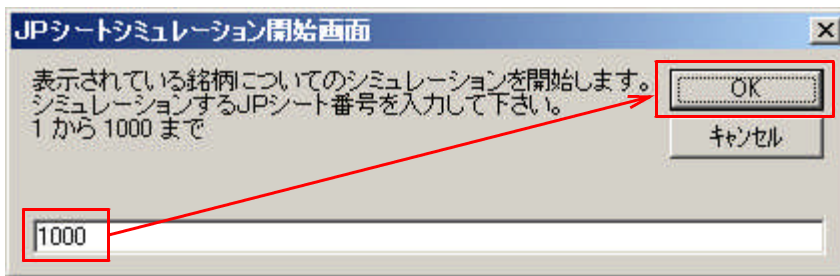
次は、この売りサインが点灯してからの値動きを調べます。上記チャートをみれば分かりますが、数値として表示させます。

## ■全期間について売りサイン後の値動きを調べる

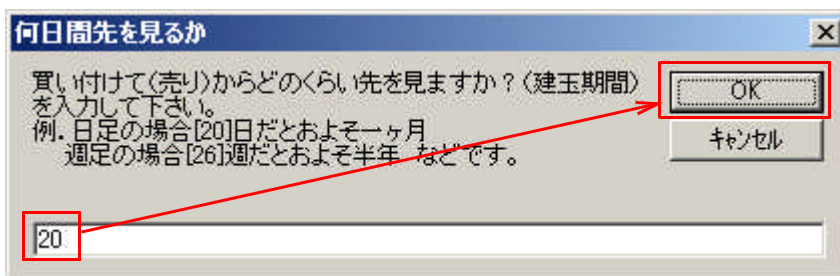
「条件」 - 「シミュレーション」をクリックします。



1000番を調べます。



20日としました。



結果はこうなります。今回は売りサインですから、下の項目に注目します。

【シミュレーション結果】 [1004]日経平均株価 日足[1000]番シート 期間:06/10/12-10/08/11 建玉期間:20日間														
買いの場合		[1004]日経平均株価 日足[1000]番シート 期間:06/10/12-10/08/11 建玉期間:20日間												
回数	サイン日付	-翌寄付-	-最高値-	損益(¥)	損益(%)	日柄	-最高値-	損益(¥)	損益(%)	日柄	-高値-	損益(¥)	損益(%)	日柄
1	07/07/06	18226	18282	56	0.31	0	18214	-2	-0.07	0	18282	56	0.31	0
2	08/06/19	14171	14190	19	0.13	0	13903	-68	-1.89	0	14190	19	0.13	0
3	09/05/26	9427	10171	744	7.89	12	9353	-74	-0.78	1	9493	66	0.70	1
4	10/08/11													

売りの場合														
回数	サイン日付	-翌寄付-	-最高値-	損益(¥)	損益(%)	日柄	-最高値-	損益(¥)	損益(%)	日柄	-安値-	損益(¥)	損益(%)	日柄
1	07/07/06	18226	16653	1573	8.63	17	18282	-56	-0.31	0	18214	12	0.07	0
2	08/06/19	14171	12671	1500	10.59	18	14190	-19	-0.13	0	13903	268	1.89	0
3	09/05/26	9427	9353	74	0.78	1	9493	-66	-0.70	1	9353	74	0.78	1
4	10/08/11													

2勝1敗といったところです。

2勝については、そこから相場が一気に下へと向かっていますので、こちらは良いでしょう。

ただ1敗については、そこから相場はさらに上へといっていますので、売りポジションを持った場合は、損切りのルールをきちんと決めておく必要があります。例えば、チャートをみてサイン前の高値の山を越えたら（指標76. 日柄転換線を利用）とかいうものです。

## ■まとめ

今回の例でいうと、相場は下方向ということにやや分がありそうです。売りサインが2勝1敗ということから。

買いサインの場合も同様にお試し下さい。ただこの日（8/11）を基準とした場合、過去においてサインが表示されませんでした。このことから、どちらかという相場は上よりは下ともいえます。

今回紹介しましたように、直近からサインを作って過去を調べ、将来の相場を判断する、といったユニークな機能としても「売買条件作成」は用いることが出来ます。是非、ご活用下さい。